

FOS2016 奨学生の磯村真由子です。2020 年よりハーバード大学にて有機合成化学分野のポスドクとして働いております。前回の報告書で、次のポジションの為の出願準備を開始した旨をお話ししました。現在、まさにそのプロセスの最中で、出願書類提出を完了し、いくつかの大学から面接を受けました。今回は、出願までとその後の面接について、詳しくお話したいと思います。

出願書類提出まで(10月~11月)

私はアメリカとヨーロッパ両方に出願しました。通常、締め切りは 10 月初めから 11 月末までの 2 カ月に集中するので、10 月が始まる前にはすべての出願書類が揃う事が望ましいです。必要書類としては、

- カバーレター
- プロポーザル (3 プロジェクト、1 プロジェクトあたり 2 ページ程度)
- CV
- 博士課程とポスドクの仕事の要約 (それぞれ 1-2 ページ程度)
- Teaching Statement (これまでの教職経験と、教授になったらどんな授業をするかの説明。1 ページ)
- Diversity Statement (大学の多様性を高めるために自分が貢献できることの説明。1 ページ)
- 3 人からの推薦書(私の場合は修士、博士、ポスドクの指導教官)

を提出することが求められます。様式/ページ制限は大学によってまちまちですが、内容は大体同じです。そのため、出願できるすべての大学にとにかく出すことが一般的なようです。私は若干書類準備が遅れて、最終的に 12 校にしか出願できませんでしたが、30 校以上出す人も少なくないようです。

出願から第一次面接(12月)

書類審査に通った場合、出願してから大体 1 カ月以内に分野の近い教授からメールが届き、一次面接に招待されます。一次面接は ZOOM で行われ、Department の教授たちと(場合によっては学生や採用担当、多様性担当の方も参加)、大体 20-40 分程度の質疑応答を行います。形式は大学によって異なりますが、大抵の場合は質問の大まかな内容と、スライド発表の有無をあらかじめ教えてくれます。質問の内容は自分の研究プログラムのビジョンや指導者として目指す事など大きな展望系と、スタートとしてどの程度の規模の研究スペースや機械が必要なのかといった具体的な計画系の両方が聞かれました。大学によってはこの ZOOM 面接を行わず、直接大学訪問面接に招待するところもあります。

一次面接から大学訪問面接(1~2月)

一次審査合格の場合、面接からおおよそ 1-2 週間で大学訪問面接に招待されます。これは、ゲストとして大学に招待され、1 日-1 日半かけて Department の教授たち & 学生たちと面談し、さらにセミナーとプロポーザル発表を行う大イベントです。それぞれの教授との面談はおおよそ 30 分程度、セミナー(大きな講堂での研究発表)とプロポーザル発表(審査委員会とだけの会議)は 1 時間ずつが一般的で、昼食と夕食も大学の方々とするので、朝から晩まで 12 時間以上休みなくずーっとしゃべり続けなくてはなりません。夕飯からホテルへ帰ってきたときはもうヘトヘトで、そのままベッドに倒れこむくらい、人生で一番体力を使ったイベントとなりました。現在自分はこの段階にいて、いくつかの面接を終えたところです。結果は分かりませんが、Department の方々が自分の為に一日時間を割いて対話してくれるというのは本当に貴重で有難い事で、一研究者としてこのような経験が出来たことに心から感謝しています。

このように、2023 年後半は自分にとって非常に濃く、成長できた期間となりました。最中にいるときはとにかく不安でストレスがすごく心が折れそうになった事もありましたが、だんだんとこの様な状況にいる事がいかに恵まれているかを感じる事が出来るようになってきました(それでもストレスはありますが)。ここからどうなるかは全くわかりませんが、後悔のないよう、自分が出せる全力を出し切って頑張っていこうと思います。最後になりましたが、引き続き、支援をしてくださっている船井財団の方々に心より感謝申し上げます。